

令和 8 年度 三重県 英語教育改善プラン

目標

外国語によるコミュニケーションを図る素地・基礎となる資質・能力の育成
～言語活動の充実 / 指導と評価の一体化～

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①教科の専門性や系統性を意識した教科研究、授業づくりが図られている。

外国語科の教科担任制（専科教員の単独指導）を実施している。

【県独自調査】

(R6:50.3%⇒R7:53.8%)

②研究推進校における効果検証で、英語の授業でICT機器（発話・発音の録音・録画等）を活用することは、児童の英語力向上と学習意欲（情意面）の双方に有効であることが示された。

① 学期末、事後での評価に終始してしまい、評価の結果が児童の学習改善や教師の指導改善につながっていない。

【県独自調査】

(R6:34.1%⇒R7:36.4%)

② 新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合【目標値50】

(R6:13.9%⇒R7:14.2%)

2. 要因分析

①継続的な研修や指導助言を重ねる中で、言語活動を通して児童の英語によるコミュニケーション能力を高める授業実践を示してきた。言語活動を重視した授業実践が定着している。

②研究推進校における検証で成果は得られたものの、その効果や活用方法についての普及に課題がある。

①指導と評価の一体化について、CAN-DOリストの実質的な活用が浸透していない。外国語活動・外国語科の授業においても「めあてとふりかえり」を実施する等、児童が自身の成長に気付き学ぶ意欲に繋がる授業づくりが求められる。

②系統的な英語教育において、最も基礎となる小学校段階の外国語活動・外国語科の意義や専門性が、現場において十分に理解されていない状況が考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①言語活動の更なる充実の推進

・児童のコミュニケーションを図る資質・能力を育成するため、授業における言語活動の役割とその必要性、具体的な実践例を随時発信する。また、言語活動を通して児童に力をつけることを意識した授業づくりを行う。言語活動の更なる充実を図る。

・児童の言語活動の具体例や教員の指導方法等を取り上げ、授業改善や実践力の向上につながる研修を実施する。
・児童の伝え合う力の育成をめざし、県内小学校での公開授業、大学教授による講義を通して、言語活動を中心とした授業づくりの具体的な在り方について受講者の学びを深める研修を実施する。

②ICTの活用と研究成果の普及促進

・R6・7年度研究推進校の成果を広く普及させるとともに、県内小学校に対して授業における効果的なICTの活用例を周知する。

【ICTを活用した児童生徒の英語力向上に係る取組研究実践事例集】

https://www.mpec.jp/wp-content/uploads/2021/10/siryou_kyouka.htm

・ICTの効果的な活用として、デジタル教科書の教員向け活用研修を実施する。録音・録画に留まらないICTの機能習得等を支援することで、ICTを活用した英語教育の質向上を図る。

・県内英語教育推進リーダー等によるICTを活用した授業実践や指導方法の共有を通じて、教員のICT活用指導力の向上につながる研修を実施する。

①児童の英語の学習意欲向上の推進

指導と評価の一体化を意識した授業づくりを進めることで、児童が自らの学びや成長を実感し、学習を調整しながら主体的な学習ができるよう、研修や指導助言を行う。公開授業や研修会の開催等で、効果的な実践事例や好事例等を共有し、その推進を図る。

②新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合を増加させるための取組

CEFR B2相当以上に加え、CEFR B1レベルにおいても、新規採用者試験において加点制度を導入した。また、大学説明会や教職ガイダンス等を利用して英語加点を説明し英語能力向上の重要性を周知し、英語免許状所有者、英語資格取得者の増加を図る。

未だ改善が必要な点

令和 8 年度 三重県 英語教育改善プラン

外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力の育成

～言語活動の充実 / 教師が英語で行う授業の推進～

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R8：57%）

目標

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンス含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①生徒の英語力
(R6:51.6%→R7:65.8%)
- ②授業中、50%以上の時間、生徒が英語による言語活動を行っている割合
【県独自調査】目標値80
(R6:77.0%→R7:81.8%)
- ③ICTの活用
・発話や発音の録音・録画
(R6:89.9%→R7:89.9%)
・デジタル教科書の活用
(R6:97.3%→R7:98.6%)

未だ改善が必要な点

- ①授業中、教師が発話の50%以上を英語で行っている割合
【県独自調査】目標値100
(R6:71.6%→R7:78.4%)
- ②全国学力・学習状況調査「即興で伝え合う活動」
(R6:68.8%→R7:項目なし)
- ③遠隔地の生徒等と英語で話す交流等を行っていない割合
(R6:86.5%→R7:79.7%)

2. 要因分析

- ①②モデル4校でのオンライン国際交流事業で、生徒の実践的な英語コミュニケーション能力育成に繋がる言語活動例を提示することができた。言語活動を通じた資質・能力の育成に係る研修で、教員の指導力向上と主体的・対話的で深い学びについて研修を促進し、授業改善に繋がった。
- ③デジタル教科書研修等によりICTの活用が定着してきている。

- ①統合的な言語活動となるよう、教師による英語の発話量を増加させる必要がある。
- ②教師の英語発話機会不足やALTとの協働が十分に図れていない現状に加え、即興的な英語でのやり取りを促す活動が日常的に授業へ組み込まれていないことで、生徒の実践的なコミュニケーション能力の育成が課題となっている。
- ③学校単独で遠隔地との交流機会創出は困難なため、県による継続的な支援が必要である。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②③生徒の英語力向上のための授業改善

- ・R7年度の生徒の英語力は向上したが、全国学力・学習状況調査や授業の様子から依然として生徒の英語力に課題が見られる。言語活動の充実やICTの活用を通じた授業改善を継続的に推進し、英語力の向上を目指す。
- ・県内英語教育推進リーダー等によるICTを活用した言語活動の実践事例や指導方法を取り上げる研修を行い、受講者が自らの実践を見つめ直し、対話等を通じて、今後の授業改善につなげる。
- ・生徒が英語を用いて主体的にコミュニケーションを図る授業づくりにつながる研修を実施する。

①②教師が英語で行う授業の促進

- ・教員等への研修を通じ、生徒のコミュニケーション能力の育成と主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する。授業内に教師が英語を多く使用することで、生徒が英語に多く触れ、生徒同士の対話を促し即興で伝え合う活動に繋がるような授業実践を発信する。

②③言語活動を充実させるためのICTの活用の推進

- ・オンライン国際交流事業を継続し、実際のコミュニケーション場面を意識した授業づくりに取り組むことで生徒の国際的な視野やコミュニケーション能力を育てる。
- ・AI機能やデジタル教科書、録音・録画に留まらないICTの多様な機能を活用することで、効果的な英語教育を研究する。
- ・英語教育の成果、課題、好事例等を多様な媒体で発信するとともに、市町等教育委員会と指導主事会等を通じて共通理解を深め、英語教育の課題解決と質の向上に努める。
- ・三重の魅力を英語で発信する「ワン・ペーパー・コンテスト」を実施し、中学生の英語表現力・発信力を育成する。

令和 8 年度 三重県 英語教育改善プラン

「指導と評価の一体化」の質的向上に向けた授業改善の推進 ～評価の精選とICT・AI活用による言語活動の充実～

目標

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R7: A2以上 54.5%、B1以上 21.8% ⇒R8: A2以上 57%、B1以上 25%)

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①パフォーマンステストの実施体制について、スピーキングとライティングの両方を実施した学校の割合に向上が見られる。
【R7は県独自調査】
(R6:34.9%⇒R7:43.5%)
②CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合について、向上が見られる。
(R6:86.9%⇒R7:90.8%)

①授業における、生徒の英語による言語活動の割合について、課題が見られる。
(R6:55.8%⇒R7:42.4%)
②英語担当教員の授業における英語使用状況について、課題が見られる。
(R6:45.5%⇒R7:36.7%)

2. 要因分析

①統合的な言語活動や、「指導と評価の一体化」を重視した単元指導計画の作成を推進したことによって、複数領域における評価機会が増加したと考えられる。
②教員採用選考試験において、外部検定試験による能力評価の活用を継続したことが要因として考えられる。

①②ICT活用やパフォーマンステストが既存の授業に上乗せされ、指導や評価の精選が進んでいない学校があることが要因と考えられる。正確性を重視した評価準備や事務的な説明が優先されることで、教員・生徒双方が英語で即興的にやり取りを行う機会が十分に確保できていない。

3. 目標を達成するための施策・事業

①①②指導と評価の精選の推進
・各校の単元指導計画における「記録に残す評価」の場面を精選し、CAN-DOリストと連動した年間指導計画のもとで、見通しを持った「指導と評価の一体化」を組織的に進めるための指導・評価改善研修を実施する。

①②生徒主体のICT・AI活用の推進
・生徒の言語活動量を確保するため、AI等の活用を教員の管理業務から生徒の自律的な学習（即興的な発話練習や推敲）へと転換させ、教員が英語で生徒とやり取りを行う時間を創出するとともに、「AIの活用による英語教育強化事業」で蓄積された指導案等の好事例を県のグループウェア等を通して発信する。
・生徒の主体的な学びを支援するため、高校教員によるICTを活用した実践報告をもとに受講者同士が協議することで、自らの授業に生かす視点を見出し、授業改善につなげる研修を実施する。

①①②即興的なやり取りを重視した授業改善の推進
・グローバルに活躍することが期待される層の更なる拡充に向けて「英語ディベートワークショップ」を実施し、高校生が英語によるディベートやディスカッションを通して実践的な英語運用力を高める。また、教員が日本語での説明を削減し、即興的なやり取りを中心とした授業を展開するとともに、パフォーマンステストを日常的な言語活動の延長線上に位置づけられるよう、指導力・評価力の向上に向けた研修を深める機会とする。
・生徒が英語を用いて主体的に伝え合う言語活動の充実を図るため、公開授業や協議を通じて、教師による英語での授業展開や、生徒同士のやり取りを取り入れた授業づくりについて学ぶ研修を実施する。

三重県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	46.4	50	48.7	54	54.5	57		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		20	12.7	20	19.2	20	21.8	25		30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		※-	45.2	60	55.8	70	42.4 (県独自調査)	80		90	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		55	61.5	72.5	34.9	75	43.5 (県独自調査)	77.5		80	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	60.9	65		70		75		80	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		80	80.1	80	86.9	80	90.8	80		80	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		※-	36.9	60	45.5	70	36.7	80		90	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	47.7	50	51.6	54	65.8	57		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		90	64.9	75	77.0 (県独自調査)	80	81.8 (県独自調査)	85		90	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		100	79.4	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	76.4	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	81.8	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		50	44	50	44.5	54	67.4	57		60	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		100	54.3	100	71.6 (県独自調査)	100	78.4 (県独自調査)	100		100	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	80	65.3	82		84		86		88	
		達成状況の把握（％）	100	83.8	100		100		100		100	